

令和6年産(5年播種) 麦類生育概況

長野県農業試験場 作物部

調査月日	項目	大麦:ファイバースノウ			小麦:東山55号(しろゆたか)参考		
		平年	令和5年(播)~6年(産)	平年比	平年	令和5年(播)~6年(産)	平年比
出芽期	出芽数 本/m ²	155	168	108%	168	172	102%
越冬前 (12月15日)	草丈 cm	11.4	11.9	104%	14.3	12.6	88%
	茎数 本/m ²	368	368	100%	689	398	58%
	葉数	3.6	4.4	+0.8	5.4	4.3	-1.1
越冬後 (3月1日)	草丈 cm	12.1	12.6	104%	16.8	19.1	114%
	茎数 本/m ²	672	1177	175%	1241	1427	115%
	葉数	6.1	7.4	+1.3	7.5	7.4	-0.1
(3月15日)	草丈 cm	14.7	17.3	118%	20.4	19.9	98%
	茎数 本/m ²	894	1028	115%	1226	1375	112%
	葉数	7.2	8.3	+1.1	8.5	8.4	-0.1
幼穂形成期 茎立期(参考)		3月2日	2月24日	-7	3月1日	2月28日	-2
		3月27日	3月28日	+1	3月26日	3月25日	-1
出穂期		4月29日	4月24日	-5	5月1日	4月28日	-3
成熟期		6月6日	5月31日	-6	6月14日	6月12日	-2
成熟期	稈長 cm	94	92	98%	81	85	105%
	穂長 cm	4.7	5.2	110%	8.6	8.7	101%
	穂数 本/m ²	451	502	111%	563	673	119%
収量	子実重 kg/a	67.5			63.0		
	容積重 g/l	695			780		
	千粒重 g	39.0			42.1		

※大麦の平年値は過去7年間に於ける収量最大年と最小年を除いた5カ年の平均値。

※茎立期(主稈茎の節間長2cm)はデータ数不足により平年値は参考値として平成30年度~令和4年度の平均値を示す。

※東山55号(しろゆたか)は供試年数が少ないため、直近3年間平均値を平年値とした。

<耕種概要>

栽培様式:条間30cmドリル播

播種期:令和5年10月25日 播種量:7kg/10a

基肥窒素量:6kg/10a 酸度矯正:炭苦土石灰50kg/10a

茎立期追肥量:3月8日 窒素量3kg/10a 止葉展開期追肥量(N):大麦4月16日 小麦4月25日 窒素量2kg/10a

<生育概況>

- 越冬前** 気温は11月上旬がやや高め、中旬は低めで下旬は平年並み、12月以降にはやや高めで推移した。降水量は11月上~中旬は多く、12月上下旬はやや少なかった。播種後の出芽は良好であった。越冬前の生育量は、大麦では草丈、茎数、葉数とも良好であったが、小麦では遅れていた。
- 越冬後** 越冬期間の1~2月は低温傾向に推移し、降雪は2月上旬と3月前半で多かった。麦の生育は大麦・小麦ともは平年に比べ草丈は長めで、茎数は大麦・小麦とも平年に比べ多かった。3月15日には、大麦では平年に比べ草丈は長く、茎数・葉数は多かったが、小麦では茎数は多めだが草丈・葉数は平年並みにとどまった。
- 幼穂形成期~茎立期** 越冬後から茎立期前頃の3月中は、全般的に降水量が多くなった。幼穂形成期は平年に比べ、大麦で7日、小麦で1日の前進した。茎立期は平年に比べ、大麦では1日遅く、小麦では1日早く、ほぼ平年並みであった。
- 出穂期** 4月の気温が大幅に高く推移したことから、出穂期は平年に比べ大麦では5日、小麦では3日早かった。
- 成熟期** 出穂期以降も高温で推移し、成熟期は平年に比べ大麦で6日、小麦で2日早まった。平年に比べ、生育は、大麦では稈長は平年並み、穂長および穂数は上回り、小麦では稈長および穂数は平年並み、穂数は上回った。越冬後~成熟期にかけて温暖少雨傾向が続いたため、前進した生育が、その後も良好に維持され、越冬後や穂肥などによる肥効により、有効穂数割合が高まったと考えられた。
- 収量**